

【全国納税貯蓄組合連合会優秀賞】

税は現在と未来への投資

鹿児島市立谷山中学校

一年 上唐湊功

「こりやすごい山だね。まあ、国がやつてくれるでしょ。高い税金払つてるんだし。」

これは、山積みのゴミに対し、知らぬおじさんが言つた言葉である。

今年の夏、親戚の家が水害に遭い、ぼくは手伝いに行つた。水に浸かってしまった畠やタンスを父と運んだ。ぼくはおじさんの言葉が何度も頭を巡つた。なぜなら、山積みになつたゴミと税金がどうしても結びつかないからだ。そこで、ぼくはゴミと税金との関わりについて調べることにした。

まず、通常のゴミ処理は市町村が中心となつて、町の美化保全を目的として市町村の税金で処理を行つてゐる。大雨の日もお盆も休まずゴミを集めてくれる収集車、ゴミ処理場、そこで働く人もこの税金でまかなわれてゐる。しかし、災害が起きたとなると、全く話が変わる。まさかの国の登場。災害によるゴミをすべて処理しようとすると莫大な資金が必要になる。確かにぼくが目にしたゴミの山は、普段のゴミとは比べものにならない量のゴミだつた。しかもぼくが見たところ以外にもたくさんの方所に集められていることは、容易に想像できる。

しかし税金が使われてゐるのは、ゴミ問題だけではなかつた。断水のため、近隣の市から給水車が来ていた。水を求めて長蛇の列。

「ありがとうございます。」

と笑顔になつた。その他にも、市役所の人が、被害を受けたところを見回つて、被害状況を把握していた。避難所を開設し、お年寄りや避難してきた人の対応をしていた。きっと自分の家や家族も心配だつたのではないだろうか。また、保健師のいところは、避難所やお年寄りの健康保持や心的フォローをすると言つていた。税金が、人という形に変わつて、被害を受けた人や地域の生活や安心安全を取り戻そうと動いてゐるのだ。崩れた崖、溢れて水害を引き起こした用水路の拡張工事なども、もちろん税金で工事される。被災した家の修理にも助成が出るらしい。がけ崩れで行方不明になつた人を捜索しているニュースも見た。その捜索も税金である。ぼくは税金をお金としか見ていなかつた。けれど、形を変えてぼくたちの生活や命を守つてることを初めて知つた。

ぼくは、今回の災害を通して税金の大切さはもちろんのこと、税金の活躍を自分事として目の当たりにした。そして、身近なものに変わつた。税金は、現在と未来への投資。運用次第で、大きな利益を生み出す。どんな運用方法があるか、有効かをぼくたちも自分事として考えていくべきだ。ぼくたち、そして子や孫の将来のために。